

**事業の解説** 新たな需要や雇用の創出を促し地域経済の活性化を図るため、新たに起業・創業や第二創業を行う方に対して、その創業等に要する経費の一部を補助します。  
**【制度の利用・お問い合わせについて】**  
 あきた企業活性化センター／企画・総合相談担当まで。



空き家だった民家を低コストで改修した事務所。柳の老木が立つ風情ある空間に調和する外観。

## 中古建物ストックの流通を促進し、“絆”と“地域”の再生をめざす

### やまと建築事務所

「建物診断」で、中古建物を安心して住めるものに。業者、消費者、そして地域との“和”を取り持つ異色の建築事務所在、地元密着の独自の活動を展開している。

最初にぶつかったのが“資金調達の壁”だった。事務所を構えるのに必要な資金調達を図るために活用しようとした事業は、退職していることが条件のものが多く断念せざるを得なかった。ところが商工会議所が紹介してくれた、あきた企業活性化センターの創業補助金事業は会社員であっても補助を受けられ、しかも補助金額も満足のいくものだったのだ。その資金で空き家を改修して事務所とし、開業にこぎつけた。「この創業補助金事業との出会いは、前進の大きな力になった」と、松塚代表は振り返る。

### ミッションは、「守り、残し、活かす」こと

建てる人も使う人も“大きな和”を持ってつながる社会を一。事務所名にはそんな願いも込められている。建物のインスペクションとは、建物のコンディションを把握し、後に起こり得るトラブルの発生を予防するというのが目的であり、施工の不具合の責任を追究するものではない。ところが、建築・不動産事業者の間では“あら探しをされて、値切られる”という誤解があり、消費者の方々にもインスペクションの重要性はまだ知られていない。松塚代表は、これからも地道にPR・啓蒙活動をして、中古建物という社会的資源が効果的に流通するよう働きかけたいとしている。“壊す”あるいは“放置”ではなく、“守り、残し、活かす”という選択。人と人、人と地域の調和をめざし、若き一級建築士の挑戦が始まっている。

### 建物の「インスペクション」を事業の柱に

大曲・丸子川のほとりに佇む「やまと建築事務所」。同所の特長は、「インスペクション(建物診断)」を事業の柱に据えていること。手術の前に医師が診察をするように、リフォームをする前に建物の健康診断を行うというものだ。松塚智宏代表が、日本ではまだ認知度の低い「インスペクション」に着目した理由は、帰郷後に目の当たりにした“空き家・空テナント”の多さだった。高齢化、跡継ぎ不足、過剰な住宅供給により町中に空き家が増え、周囲をさみしくさせている。この空き家を有効に流通させることができたら、住む人も業者も喜ぶ。そして地域が荒廃するのを防ぐことができる…。手間のかかる“改修”物件は多くの設計事務所が敬遠する傾向がある中、松塚代表は決断した。「秋田の未来のために、自分がやろう」と。

### 「創業補助金」で独立開業を実現

会社員をしながら独立の準備を始めた松塚代表が、

### やまと建築事務所

〒014-0025  
 秋田県大曲市大曲大町2-24  
 Tel 0187-73-5955  
 Fax 0187-73-5956  
<http://www.yamato-arch.com/>



松塚智宏代表は、日本ホームインスペクターズ協会公認の住宅診断士資格を持つ。秋田県では同資格取得者は松塚代表を入れて4名のみ(平成26年4月現在)。



代表みずから、軒下や天井裏に入り、建物の診断をする。目視のほか、赤外線サーモグラフィやセンサーなどの機器も使用して診断を行うケースもある。



室内のワークスペースはリバービュー。カフェのようなくつろぎ感がある。改修前は小さな窓だった。